

# 第75回日米学生会議

The 75th Japan-America Student Conference



Foundations: Laying the Groundwork for  
Bilateral Reflection and Reimagination

～価値の再考・未来への思索～

KYOTO NAGASAKI TOKYO

2023 8/2 - 8/26

主催：一般財団法人国際教育振興会  
企画/運営：第75回日米学生会議実行委員会  
後援：外務省、文部科学省、米国大使館、  
一般社団法人日米協会  
賛助：公益財団法人三菱UFJ国際財団、  
(予定) 公益財団法人双日国際交流財団、  
尚友倶楽部、他



# 目次

03 日米学生会議の理念

04 実行委員長よりご挨拶

05 第75回日米学生会議実行委員会

06 日米学生会議の活動

07 第75回開催地

08 分科会紹介

10 参加者の声

11 その他情報

12 募集要項

## 日米学生会議の理念

世界の平和は太平洋の平和にあり、  
太平洋の平和は日米間の平和にある。  
その一翼を学生も担うべきである。



### 宮澤喜一氏

(第78代内閣総理大臣・1939、1940年参加者)

As one whose own first involvement in Japan-US relations was under the auspices of the Japan-America Student Conference in 1939, I can tell you honestly that it was one of my formative events of my lifetime. Having stood in your shoes more than fifty years ago, I sincerely hope that you will take full advantage of your participation in JASC.

### ヘンリー・A・キッシンジャー氏

(元アメリカ合衆国国務長官・1951年参加者)

I had have little opportunity, in the post-war period, to meet and exchange views informally with Japanese people. The Japan-America Student Conference provided that opportunity, and from it came many valuable new perspectives on Japanese culture and society. It was also at that time that my interest was awakened in Japanese artistic and aesthetic traditions, and appreciation which remains with me to this day.



"I became a different person from my experiences at the Japan-America Student Conference, more interested in public and national and international affairs and in grasping every chance to participate in new and challenging activities."

-US Secretary of State Henry Kissinger, JASC 1951 Delegate

## 【日本側実行委員長挨拶】

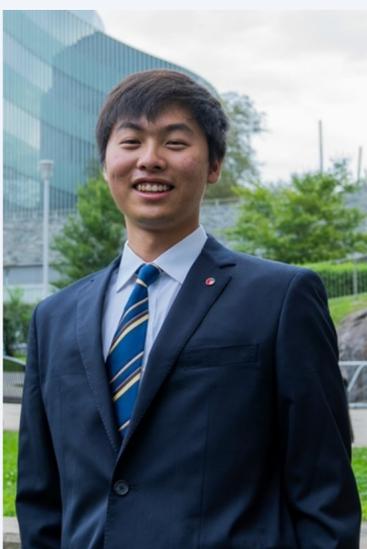


日本側実行委員長  
久野賢登

慶應義塾大学環境情報学部

『価値の再考、未来への思索』・・・長い歴史の中で重んじられてきた価値を見直し、未来への緒を探るという攻めた表現。これは、我々、学生により実行される第75回日米学生会議の自信を持って紹介できる日本語テーマである。しかし、いくら自信を持ったとしても攻めたことを言った途端、多かれ少なかれ恐怖を感じる。なぜだろうか？人々に共有されているある社会構造の欠陥している部分を指摘し、「これは間違っている！」と喫茶店で一所懸命知り合いに訴えたところで、なかなか変化は生まれないだろう。何者かが、何かについて攻めた意見を述べ、行動に移す局面では、常に行く手を阻む抵抗勢力がいるからであるというのが私なりの解だ。その抵抗勢力があなたの家族、仲間、友人、恋人である場合、あなたよりも経験が豊富な師匠、上司、才人である場合、どうするか。無条件に同調行動をとるのではなく、如何にして彼らと対話するか、ここでは勇気を持って考えなければならない。戦争という観点で歴史を遡ると、様々な戦争の中でも、残虐性、影響力、重要性においてより顕著であった戦争が歴史書の大半を占める傾向にある。怖ければ怖いほど、攻めれば攻めるほど、よりインパクトが強いほど、感情に左右されやすい「人」の相互関係で形を成す社会を動かすための材料として効果的なのではあるまいか。第75回日米学生会議では、情報の規模と精度を正確に捉え、夢のある攻めた議論をしたい。日米の平和と未来の創造に資するグローバルリーダーに必要なだと考えるためだ。"Get out of your comfort zone (=居心地の良いところから脱せよ)"という言葉に突き動かされ、我々と共にデザインした環境で共同生活、そして愚直に会議をしたい学生の皆さんには、是非とも、第75回日米学生会議に参加してほしい。

## 【アメリカ側実行委員長挨拶】



米国側実行委員長

Shun Sakai

Duke University  
Electrical Engineering and  
Computer Science

The global dynamic, whether it be political, social, or economic, has changed greatly over the past 75 years. From economic crises to natural disasters, every past and present challenge has shaped the relationships that form the global community that we have today. The 75th Japan-America Student Conference will be a milestone in the cherished history of JASC and the US-Japan relationship. What once was a response to a deteriorating relationship has become the longest-running exchange between the US and Japan and empowered generations of leaders with the knowledge and skills to maintain and further this strong bilateral relationship. As we approach this milestone, let us take a moment to step back and reflect on the roots of this long standing relationship. Our theme, "Foundations: Laying the Groundwork for Bilateral Reflection and Reimagination," embraces the importance of reflection as we form the future of the US-Japan relationship in a dynamic and ever-changing global society. To maintain peace and prosperity while making the advances necessary to face future challenges, it is imperative the US and Japan continue to develop their relationship. JASC75 is an opportunity for participants to reflect and reconnect with the foundations and roots of the bilateral relationship while embracing current challenges in advancing the relationship between Japan and the US to one that adapts to the demands of modern society and promotes further collaboration and cooperation for the next 75 years to come.

# 第75回日本側実行委員会



実行委員長/財務

久野賢登

慶應義塾大学  
環境情報学部



副実行委員長/広報

菊池宙

東京大学  
法学部



広報

岡田潤

島根大学  
生物資源科学部



広報

田頭奈寿菜

国際教養大学  
国際教養学部



選考

玉真優里

法政大学  
人間環境学部



選考

中坊倫太郎

国際基督教大学  
教養学部



選考

山崎万由佳

国際教養大学  
国際教養学部



財務

吉住保希

立教大学  
法学部

# 日米学生会議の活動内容

春合宿  
5/5 - 5/7

防衛大研修  
5月下旬

自主研修・  
勉強会

本会議  
8/2 - 8/26

## 分科会活動

毎週一回程度

### 【春合宿】

参加者は、4月からオンラインミーティングを行い、5月の二泊3日の春合宿にて初めて顔合わせをします。当合宿では、日米学生会議の歴史を学ぶとともに、夏の本会議に向けて英語による議論を行い、日米学生会議の基礎を学びます。

### 【防衛大学研修】（日米関係他、政治・社会構造・集団哲学など幅広く知見を得る）

日本の将来の平和と安全を担う自衛官の幹部候補生養成を目的とする防衛大学校を訪問します。日米関係を考える際、極めて重要となる「安全保障」についてより詳しく学ぶため、防衛大学校教授による特別講義を受ける他、同学校の学生と対話の機会を持ちます。学生という共通点はあれども、厳しい訓練や規律の中で学ぶ同学校学生の姿に刺激を受けます。

### 【自主研修】

夏の本会議に向けて、社会問題への理解を深めることを目的に自主研修を行います。第74回では福島県を訪れ、震災後の復興や地方創成、日本のエネルギー問題について議論しました。第75回では、台湾を訪れ、安全保障やサプライチェーンについて学ぶ予定です。

### 【本会議】

本会議では、日米72名の学生が約三週間に亘って共同生活を送りながら、日本の都市を巡り、見識を深めつつ各々の議論も進めていきます。分科会における議論、フィールドトリップ、文化体験並びに講演会や現地学生との討論、各サイトでのフォーラムを通じて、日米学生会議における学びの集大成とします。

※プログラム内容は一部変更の可能性があります。

# 開催地・テーマ

味わい深い京都。794年に平安京が誕生してから約千年、日本の中心であり続けた。京都は豊かな自然に囲まれ、数々の文化が花開いた。『源氏物語』や『枕草子』、清水寺や平等院、舞妓や西陣織など歴史的遺産が多くあげられる。しかし、京都はそれだけではない。全体に占める老舗企業数は全国一位、時代のパイオニアとも呼ばれる任天堂や京セラなどビジネスにも注目が集まる。そんな京都で、文化を軸に美や伝統、ビジネスやグローバル化について議論していく。本会議最初のサイトとして、参加者には文化の違いから生じる重視する価値、相手の意見へのかかわり方、議論形式の違い等についての違和感を更なる学びへとつなぐ試みを期待する。コロナ禍で厳しい状況に立たされている芸術や観光の意義や今後の展望についても考える。



## 京都

### 黎明 ~Dawn~

日本本土最西端に位置し大陸に近く、古代から「日本の窓」として外国文化と深い接点を有してきた長崎。西欧との交易や、キリスト教の流入とその迫害などに代表される歴史の名残を、今でも色濃く感じる事ができる。明治期の産業革命や原爆の投下など、近代以降の歴史においても重要な示唆を与えてくれる。また、山が海に迫り多くの島嶼を有する長崎には、豊かな自然環境が広がっている。地熱発電や林業、漁業など自然の恩恵を授かる一方で、雲仙普賢岳の噴火など、自然は時に私達に災いをもたらす。本会議の半ばをしめる第二サイトとして、参加者は、地方サイト長崎の魅力を感じてもらおうとともに、その特殊性を生かした「歴史文化」「平和安全保障」「自然」などの多岐にわたるトピックについて、議論を深める。



## 長崎

### 邁進 ~Step Forward~

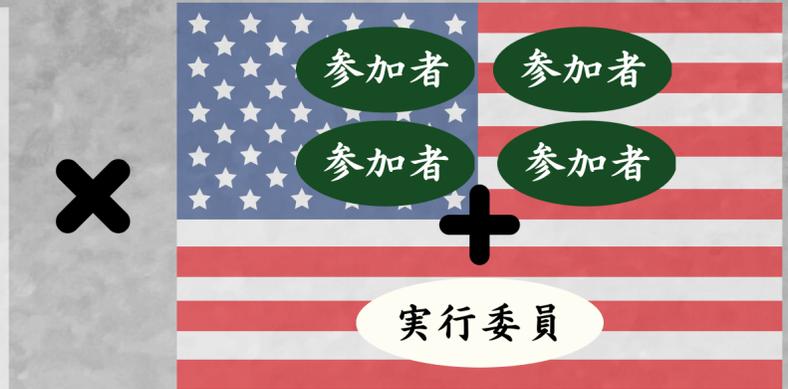
世界最大級の人口を持ち、様々な面で日本社会を先導し、眠ることのない都市東京。国会議事堂、首相官邸など政治の中枢機関を擁する永田町、日本経済を牽引する企業オフィスビルが立ち並ぶ丸の内・日本橋・新宿、ポップカルチャーやファッションのような分野で世界をリードするアイデアを生み続ける渋谷、江戸時代から受け継がれてきた数百年の伝統文化が生き続ける浅草など、その魅力と存在感は多岐にわたる。このような多様な場所に安全かつ容易にアクセスすることができる公共交通機関が整備されているのも東京が世界に誇る特長である。参加者は、こうした環境の中でクリエイティビティを高めながらも、本会議の最後のサイトとして、全体総括を行い、その後の社会への還元について考える。



## 東京

### 去来 ~Recurrence~

# 分科会



## 文化と芸術分科会

～文化により形成される認識とその影響～

本分科会では、主に「文化芸術」と「人・社会」の相互関係、日米関係において文化芸術が果たす役割について考える。近年「文化の違い」という言葉をよく耳にする。物事をその都合の良い言葉で片付けてしまったことはないだろうか。ここでは、その「文化の違い」とやはいかにして生まれるのか、そもそも文化芸術はどのようにして生まれそこに住む人々、はたまた世界中の人々に根付いていくのか、文化芸術が果たしてきた社会における役割や及ぼしてきた影響とはどのようなものか、などについてリサーチやフィールドワークを通して議論していく。文化芸術という言葉をも幅広くとらえ、日米間の相違点、類似点を整理しながら、ソフトパワーやポップカルチャーなどについても深掘りしていく。

参加者は本会議において活動の中心となる分科会に参加する。

(構成：参加者4人、実行委員1人)

＊ディスカッション：

参加者はそれぞれの興味に基づく分科会を選択し、議論をしていく中で知識を深める。



＊フィールドトリップ：

分科会の研究テーマについての理解を深めるため、政府機関、国際機関、企業、大学、NGO、NPO及び研究所などへ訪問研修を実施する。

## 環境と科学技術分科会

～環境と科学技術、その関係性を模索する～

「環境と科学技術」と聞いて、あなたは何を思い浮かべるだろうか。

この2つのwordを、二項対立として、あるいは融合されつつあるものとして、あるいは全く関係がないものとして、捉える人がいるかもしれない。様々な捉え方があるだろう。

このような「環境と科学技術」に関して、様々な切り口や専門性を持つ人で多様な議題について横断的、学際的、そしてメタ的に議論するのがこの分科会だ。考えられる議題としては、エコツーリズム、気候正義、世代間倫理、環境政策、SDGs、疫学、バイオテック、EV、インフラ、交通、そして建築など幅広い。実際に議題を決めるのはあなただ。ようこそ、環境と科学技術分科会へ。

## 国際政治と日米関係分科会

～グローバル社会における機会と課題～

いま、世界の平和が揺らいでいる。ロシアのウクライナ侵攻は世界に大きな衝撃を与えた。インド太平洋地域では米中間の対立が激化し、台湾海峡や南シナ海で緊張が高まりつつある。また脅威は多様化し、サイバーセキュリティや経済安全保障、エネルギー安全保障の重要性が増している。

こうした今日の国際情勢に日米が対応するためには、国家の行動が、歴史や規範、国内政治などの様々な要因に大きく影響されていることを理解する必要がある。そこで本分科会では、これらの異なる観点から今日の国際情勢について議論するとともに、日米の国益の一致点、相違点を探ることを目的とする。

# 分科会



## 法と道徳分科会

～今ある価値を疑い、社会を捉えなおす～

ウクライナ侵攻、国連、自衛隊、中絶、銃規制、同性婚、環境保護、多様性、労働環境、死刑制度...近年日本、アメリカ、そして世界で話題となっているあらゆるトピックは法律と関りを持ち、それと同時に、私達は自分自身の、あるいは所属団体の価値観や道徳心から、これらのトピックについて考える。私達の価値観が社会を形作っていくと同時に、法律によって無意識に価値観が出来上がっていることもある。日本、アメリカ、国際社会、それぞれのコミュニティでの法や価値観の相違点や共通点を語り合うことは刺激的なものになるだろう。この分科会では、メンバーの興味あるトピックについて、定められたルールや自分達の価値観を見つめなおす。法律を全く知らない人も知っている人も是非。議論の深まりへようこそ。

## 社会階層と多様性分科会

～規範の批判と変容～

自分とは何か。階級や国家への帰属意識はどのようにして生まれるのか。多様な社会で生きるとはどういうことか。これらの問いかけは環境や文化、歴史の中で私たちにどのような意味をもたらしているのだろうか。現代は様々なイデオロギーに溢れており、自己や他者、生活環境に対する概念を無意識に形成している。本分科会では日米におけるエリート教育やパパ活文化から、医学や科学への集団間の認識の比較など、文理関係なく幅広いトピックを取り上げ、社会を階層と多様性という縦軸と横軸で考えていく。私たちが生きている社会はどのようなシステムで機能しているのか、それはどのように再生産されているのか、それが形成する力を議論していく。

## 言葉と哲学分科会

～愛・友情・信頼、あらゆる関係の基盤を批判的思考で捉える～

当分科会ではあらゆるものの存在を露わにする「関係」を言語学的、哲学的思考を用い、愛・友情・信頼という三つの要素から深く考える。日米関係から個々人の繋がりまで、多様な関係性はどのように維持されているか、愛や友情はほんとうに存在するのか、なぜ人は他を信頼するのか、人工知能と人間は関係を構築できるのか、科学への信頼はなぜ揺れ動くのか。日米の参加者が多様な価値観を背景に、曖昧で変化し続ける「関係」を人工知能や医学といった人文の枠を超えたトピックも織り交ぜながら日米社会を議論する。これにより、懐疑的眼差し・物事の本質を捉える力を磨き上げる。当分科会では思考することに重きを置くため、所謂文系理系に囚われない議論を求める参加者を歓迎する。

## 持続可能なビジネス分科会

～21世紀の革新～

目まぐるしく変わる社会情勢に適応し、企業は自身も社会を形成する役割を担う。そのために環境を変え、戦略を変え、時には経営理念までも変える。グローバル化はビジネス界に光と影をもたらした。各国企業が連携し、多国籍企業も増える中で1980・90年代には世界の時価総額ランキングトップを占めていた日本の企業は姿を消した。しかし企業の価値は本当に利益の最大化のみから測られるのだろうか。21世紀の現在、CSR・サステナビリティなど企業は利益追求以外の面にも目を向け、他の企業との差別化を図っている。当分科会では、実在する企業・産業を議論の対象とし、日米間の企業文化に踏み込んで議論するとともに企業の役割や利益追求と持続可能な社会の両立など、21世紀のビジネスの姿を模索する。

# 参加者の声

日米学生会議（以下JASC）に参加して、日本の社会に自分が貢献できることを見つけるぞと意気込んだ3月。優秀な仲間に出会って、分科会ミーティングを重ねるごとに、自分の世界情勢に対する無知さに気づいた。世界で何が起きているのかわからないまま、視野の狭い自分だけの世界に生きていたのだと。JASCerと話すたびに、新しい学びを吸収して、日ごろの生活に持ち帰っていた。今年、進学のために書いた数々の出願書類には、JASCで議論して構築した価値観や考え方が山ほど盛り込まれている。議論を通して、相手を知ること、自分が誰なのかを知った。しかし、社会に出ると、議論していても、結果を出さなければ生き残ることはできない。そこで、社会に出る目前の大学生が集結して、根底にある本質を探っていく。これは学生というゴールデンタイムだからこそできること。JASCに出会って、今まで考えたこともなかった安全保障に興味を持ち、今は隣国と協力していくための日米を結ぶ懸け橋となれるような研究者になり、次世代と学びを循環させる教育者になりたいという夢ができた。JASCは、今まで気づかなかったところに火種を撒いてくれる通過点だ。その火を灯すか灯さないかはあなた次第。そんなJASCにあなたも参加してみないか。



東京理科大学  
藤井まなみ  
第74回参加者

For me, JASC's value lies in the social connections it fosters. The conference is reputed for its challenging roundtable discussions, its trips to prestigious cultural and corporate institutions, its final forms wherein students receive expert feedback on their collective findings, and the well-connected alumni network that makes many of these experiences possible. Through these experiences, I both reevaluated and fortified my worldviews, connected with potential employers, and learned how to meaningfully communicate across barriers of language and culture. What I cherished most about JASC was the chance to recognize my shared humanity with others through these common experiences. My daily interactions with other delegates made me more aware of my attitudes and actions, and more sensitive to the effects they have on others. These lessons are, in my opinion, some of the most valuable I will learn in my lifetime. I may not have been prompted to transform mere awareness and sensitivity into socially responsible action if I hadn't faced unique and unfamiliar situations with other JASCers each day. I hope that JASC continues to diversify so that future applicants can overcome even greater misunderstandings through vulnerable conversation and intellectual exchange.



Amherst College  
Olivia Doyle  
74th delegate

# その他の情報

## 【日本側参加者出身大学】

青山学院大学 大阪大学 お茶の水女子大学 関西学院大学 学習院大学 九州大学  
京都大学 京都外国語大学 群馬大学 慶應義塾大学 神戸大学 国際基督教大学  
国際教養大学 島根大学 順天堂大学 上智大学 千葉大学 筑波大学 東海大学  
東京医科歯科大学 東京外国語大学 東京工業大学 東京大学 東京都立大学 中央大学  
同志社大学 東北大学 一橋大学 弘前大学 防衛大学校 法政大学 北海道大学  
明治大学 立教大学 立命館大学 早稲田大学 他

## 日米学生会議ネットワーク

日米学生会議には“Once a JASCer. Always JASCer”という言葉があり、過去の参加者同士の交流が継続的に行われています。会議参加者は以下のようなイベント等様々な行事を通して、非常に大きなアラムナイネットワークに加わることができます。

### 〈ようこそ先輩〉

例年、春合宿の最初の企画として過去の参加者(=アラムナイ)と出会う、「ようこそ先輩」が開催されています。歳の近いアラムナイからすでに社会で活躍されている先輩まで、毎年多くの方と話す機会が設けられ、大きな刺激となります。

### 〈Salon de JASC〉

同窓会会員によって定期開催され、互いに交流する機会を持ちます。

### 〈過去参加者〉

89年の歴史を通じ、5000人以上のOBOGが各方面で活躍しています。

(敬称略)

天野順一 (元三井物産副社長)

アレン・マイナー (サンブリッジ・グループCEO)

井伊雅子 (一橋大学大学院国際・公共政策大学院教授)

猪口邦子 (参議院議員)

今井義典 (元NHK副会長)

小林薫 (産業能率大学名誉教授)

竹村健一 (評論家)

高橋和夫 (放送大学名誉教授)

橋本徹 (みずほフィナンシャルグループ名誉顧問)

広中和歌子 (前参議院議員)

船瀬俊介 (環境問題評論家)

降旗健人 (元伊藤忠商事副社長)

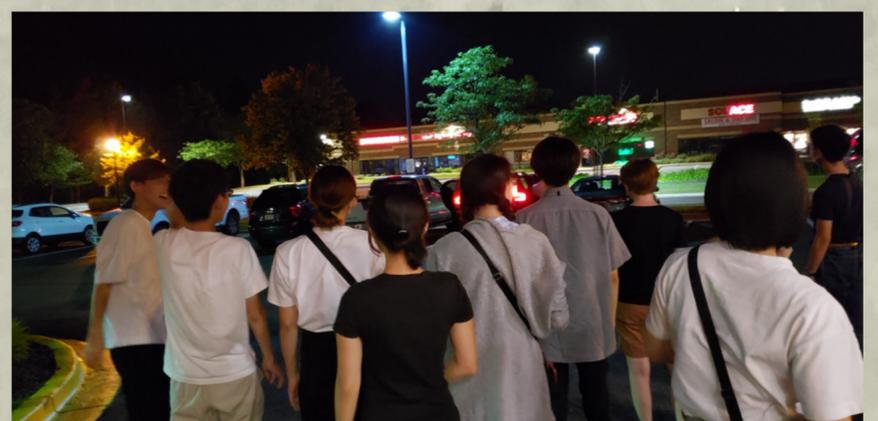
榎原稔 (元三菱商事社長・会長)

三浦俊章 (朝日新聞編集委員)

茂木健一郎 (脳科学者)

八木健 (バイビュー・アセット・マネジメント代表取締役)

八城政基 (元新生銀行取締役会長)



# 募集要項

## 応募資格

- ①2023年4月時点で日本の大学、大学院、短期大学、専門大学に在学する学生であること
- ②以下、公式プログラムに参加可能であること
- ③参加者発表後、本会議まで週一回程度オンライン会議に参加可能であること

※新型コロナウイルスに関する情報は必ずHPを確認すること

## プログラム日程

春合宿 5月5日（金）～7日（日）  
防衛大学研修 5月下旬（日程が決まり次第HPに掲載）  
直前合宿 8月1日（火）～8月2日（水）  
本会議 8月2日（水）～26日（土）

## 本会議詳細

京都 8月2日（水）～11日（金）  
長崎 8月12日（土）～18日（金）  
東京 8月19日（土）～26日（土）

## 選考日程

一次選考（書類）  
12月26日（月）～2月6日（月） 23:59  
¥3,500

二次選考  
（面接 [日本語英語を含む]、教養試験、集団討論、提出課題 [任意]）  
3月9日（木）～13日（月）※いずれか1日、1時間半～2時間程度  
¥7,000

## 募集人数

28名

## 参加費

18万円（上記公式プログラムの移動費、宿泊費、食費を含む）

【日米学生会議事務局】

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-6-2 コモレ四谷

一般財団法人国際教育振興会日米学生会議事務局

グローバルスタディスクエア3階

☎：03-3359-0563

jasc75.recruitment@gmail.com（選考担当）

jasc75.promotion@gmail.com（広報担当）

【一般財団法人国際教育振興会】

〒160-0004

東京都新宿区四谷1-6-2コモレ四谷

一般財団法人国際教育振興会分室

グローバルスタディスクエア3階

☎：03-3359-9621

国際教育振興会は日米会話学院、日本語研修所の

運営の他、外国人による日本語弁論大会、

米国大学日本語研修プログラム等を実施しています。



HP

